

宇都宮市立西原小学校 第5学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「先生は学習のことについてほめてくれる」「自分はクラスの人役に立っていると思う」の質問に対して肯定的回答をした児童の割合が非常に高い。これは、「学びと居場所のある学校」を目指し、教職員が協力して指導にあたっている成果であると考えられる。今後も、児童同士がお互いに相手のがんばりやよさを認め合う活動も継続し、指導にあたりたい。

○「クラスの友だちとの間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」「友だちの前で自分の考えや意見を発表することは得意だ」の質問に対して肯定的に回答をした児童の割合が高い。これは、授業の中で話し合う活動を多く取り入れている成果と思われる。今後も発言しやすい雰囲気づくりを大切にし、より豊かな学び合いになるよう指導していきたい。

●「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。」の質問には肯定的に回答した児童が多いが、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」と感じている児童が見られる。振り返りの活動は継続して行ってきたことであるが、今年度から、授業の中で文章にまとめ記録を残しておく活動を重点的に行うようになった。より効果的なまとめができるよう、まとめを書く際に、例文を示したり、キーワードを与えたりすることで、徐々に自分でまとめることができるように支援していきたい。考えを整理しまとめる力を育てる学習指導について、これからも児童の実態に合わせ工夫しながら指導していきたい。